



シルバーホーク(飛鷹／Silver Hawk)

2005(平成17)年12月24日鑑賞<ユウラク座>

監督=ジングル・マ/エグゼクティブ・プロデューサー=トーマス・チャン、楊紫瓊、ハン・ホン・フェイ、ジョン・チョン/出演=楊紫瓊/リッチー・レン/ルーク・ゴス/マイケル・ジェイ・ホワイト/リー・ピンビン/ブランドン・チャン/岩城滉一/チェン・ターミン (日活配給/2004年香港映画/99分)

……団塊の世代には懐かしい「月光仮面」の、現代版(近未来版)、香港版、そして女性版が登場! こんなシルバーホークというヒロインを新たにつくり出したうえ、40歳を過ぎてなお美しい肢体で主演して、派手なアクションを演じ、それを自らプロデュースするのは、アジアを代表する女優ミシェル・ヨー。作品の出来にケチをつければキリがないが、そんなことにこだわらず(?)、どれだけバカになって楽しめるかがこの映画のポイントだよ……?

プロデュース業に意欲を示しているが……

楊紫瓊は、『SAYURI』(05年)でも、章子怡、鞏俐を従えて(?)立派にその役柄を演じていたが、1962年生まれだから、実は既に40歳を超えた女優。そのため(女優としての旬を過ぎたことを自覚したため?)か、最近彼女はプロデュース業に意欲を示し、『レジェンド 三蔵法師の秘宝』(02年)を製作した(『シネマルーム7』336頁参照)が、この『シルバーホーク』はそれに続く第2弾。

『キネマ旬報』1月上旬新春号の「REVIEW 2006 Part 2」に取り上げられているくらいだから、これはあながちB級映画ではないのかもしれないが、大阪では『レジェンド 三蔵法師の秘宝』も『シルバーホーク』も天六のユウラク座のみの上映だし、観客はほんの数十名というさびしいもの。

ホントに感動的な映画をつくり出すためには、プロデューサーと主演女優の他にも、

脚本や監督など多くのスタッフの結集が必要。推察するに、楊紫瓊^{ミシェル・ヨー}は自分の才能への過信と年齢的な焦りがあり、それが「ワタシ流」を独走させているのでは……？ プロデュース業も結構だが、その作品を成功させるためには、もっとあらゆる方面の才能を結集する必要があるのでは……？

君は『月光仮面』を知っているか？

いつの時代にも子供たちのヒーローが存在しているが、私たち団塊の世代のそれは、「赤銅鈴之助」と「月光仮面」。「赤銅鈴之助」は時代劇だからそのリメイクやアレンジにはかなりの制約があるだろうが、「月光仮面」は単純に「悪を懲らしめる」「正義の味方」だから、いつの時代でもちょっとアレンジすれば、その勇姿を拝むことができるもの。

私たち500名弱の第26期司法修習生は合計10組のクラスがあり、クラス対抗のイベントがいろいろあったが、その中で某組の「クラス歌」は何と『月光仮面』……。2年後には、裁判官、検察官、そして弁護士のバッジをつける20代後半から30代の若者たちが、大声で「疾風のように現われて 疾風のように去って行く 月光仮面は誰でしょう……」と歌っていた姿は圧巻！ この月光仮面の三大キャラは、①バイク、②仮面、③マフラーだが、そんな月光仮面を君は知っているか……？

現代版（近未来版）、香港版（中国版）、そして女性版の月光仮面

楊紫瓊^{ミシェル・ヨー}がこの映画のキャラとして創設したシルバーホークは、まさに現代版（近未来版）、香港版（中国版）、そして女性版の月光仮面。映画の冒頭、まず最初にビックリさせられるのは、何とバイクで万里の長城を飛び越えること。ちなみに、バイク好きの人にはすぐわかるのかもしれないが、このバイクはBMWのF650 CS とのこと。

この最初のシーンだけを観ると、この映画の舞台は、シルクロードを舞台とした『レジェンド 三蔵法師の秘宝』と同じように、万里の長城を中心とした中国本土かと思ってしまうが、実はそうではなく、近未来都市のポラリス・シティー。

またシルバーホークは女性だから、月光仮面がつけるマフラーの代わりに風になびかせて走るのは、自らの長く美しい髪。仮面も月光仮面のように顔面をフルに覆うものではなく、目を覆う大型のサングラスだけ。そしてカンフーの達人であるシルバーホークが身につけている衣装は、長い手足をフルに活用するためのカッコいいメタリ

ックスーツだが、時としてはブーツに太ももチラリの衣装も……。このように、女性版月光仮面であるシルバーホークの楽しみ方をきちんとアピールしているのは、さすが名プロデューサー……。

1人2役は怪傑ゾロ他多数……？

シルバーホークは警察組織とは別個に、個人として世の中の悪を退治することを生き甲斐として活動している1人の女性。他方、近未来都市ポラリス・シティーの豪邸に住むルル・ウォンは、大富豪から請われて養女となったセブな美女。あちこちから結婚を求められているこの美女こそ、実は……？

こんな1人2役のオイシイ役の代表は、来年1月公開される『レジェンド・オブ・ゾロ』や『アラン・ドロンのゾロ』(74年)などで有名な「怪傑ゾロ」だが、考えてみればバットマンやスパイダーマンなどもみんな同じ……？

幼なじみのリッチマン警視は……？

ルルの幼なじみがリッチマン(リッチー・レン)で、2人は幼い頃ともにカンフーを学んだ仲。2人の仲は、この時リッチマンが「僕の妹にしてやる」と言ったことによってスタートしたもののだが、カンフーの腕前は段違い……。こんな幼なじみのリッチマンは、今ポラリス・シティー警察の警視となっていたが、今回の彼の任務は、散々警察の面子を潰してきたシルバーホークの逮捕というもの。お調子者の彼は、手柄を立てるべく勇んでその任務に赴いたが……。

悪役の個性とその狙いは……？

スーパーヒロインがどこまで輝くかは、退治する悪役の影響が大。すなわち、悪役のキャラが悪ければ悪いほど、またその狙いが非道であればあるほど、それをやっつけるヒロインの輝きも増すというものだ。この映画に登場する悪役アレクサンダー・ウルフ(ルーク・ゴス)は、かつて南米でクーデターに失敗して大怪我を負い、サイボーグとして復活したというキャラ。そしてその狙いは、人間を自在に操ることができる洗脳チップによって世界を支配すること。こりゃえらいこっちゃ……。

この野望を果たすべくウルフがとった行動は、第1に洗脳チップを発明した研究者ホ・チュン教授(チェン・ターミン)の拉致。そして第2に、最大の携帯電話ネット

ワークを所有している大企業の社長シライシの娘の誘拐。こんなすごい奴に、シルバーホークは1人で立ち向かえるの……？

岩城滉一の登場にビックリ！

シライシ役で登場するのは、何と日本人の岩城滉一。彼は、ルルの養父の親しい友人であり、ルルから「やさしいおじさま」と慕われているカッコいい大企業のトップ。彼の携帯電話ネットワークは全世界に影響力を及ぼしていた。しかし娘を誘拐され、ウルフの要求に応じているうち、自ら洗脳チップに操られることになったシライシは……？

今や月光仮面にも IT 知識が不可欠だが……？

昔の月光仮面は鍛えた身体と熱い情熱だけで、正義を守るため悪い奴らに立ち向かっていたが、現代版（近未来版）月光仮面には、それプラス IT 知識が不可欠。『007』シリーズのジェームズ・ボンドはその点バッチリで、IT 知識を十分身につけ、複雑な IT 機器を自在に使いこなしていた。しかして、女性版月光仮面のシルバーホークは……？

この映画を観ている限り、さすがに天はカンフーの技量と美貌という二物は与えたものの、頭脳までは与えなかったよう。すなわち、シルバーホークは洗脳チップが悪用された場合のヤバさはわかっても、その具体的な対処法まではわからなかった様子……？

そのシルバーホークに若干欠けている頭脳面をフォローするのが、ポラリス・シテュー大学コンピューターコミュニケーション研究室の助手で、ホ・チュン教授のアシスタントをしているキット（ブランドン・チャン）。シルバーホークファンクラブの名誉会長を自称している彼は、そんな頭脳面でシルバーホークとともに大活躍。もっとも、幼なじみのリッチマンも、「ルル＝シルバーホーク」と判明した後は、警視としてよりも幼なじみとしての立場を優先して、大いに協力したが……？

内容の出来は……？

この映画を予告編ではじめて観た時は、シルバーホークの服装とそのナレーションから、一瞬東映アニメのような子ども向け映画だと思ってしまったが、ミシェル・ヨー楊紫瓊主演

と聞き、これは観ておかなければと方針転換……。しかしその内容は、予告編で予想したとおりの単純そのもの。物語の筋はそれなりに練られているものの、その内容は、あれこれ議論する値打ち以前の話……。『レジェンド 三蔵法師の秘宝』の方がまだ物語としてはよくできていたことは明らかで、この『シルバーホーク』はあくまで大人向けマンガそのもの……。

いかにバカになって楽しめるかがポイント！

要するにこの映画を楽しむコツは、いかにバカになれるかどうかということ。まず最初に登場する、万里の長城越えを「うわーすごい！」と楽しまなければ……。次に、多くのスタントマンがケガをしたという「バンジーファイト」も十分に楽しまなければ……。そして何よりも、楊紫瓊ミシェル・ヨーの、長い手足をフルに使ったカッコよく小気味よいカンフーのワザ(?)を楽しまなければ、この映画を観た価値はないというもの……。さらにはたまに登場する、あっと驚くような美しい(?)楊紫瓊ミシェル・ヨーの姿も楽しまなければ……。

あの『007』シリーズだって、当初はシリアスなスパイドラマの傑作だったが、途中からはカーチェイスや新作武器、そしてボンドガールたちの登場によって、高級な大人向け活劇として楽しむことになったのだから……。この『シルバーホーク』は、最初からそういうスタンスで楽しまなくっちゃ……。

2005(平成17)年12月26日記